

平成21年3月9日
JR北海道

2月16日発生 スーパーおおぞら12号の車両不具合
(ブレーキ部品の脱落等)の調査状況について

札幌駅に到着した列車の車輪付近より異臭が発生していたため、車両を点検したところブレーキシュー(制輪子)の脱落等があり、その後、苗穂工場にて詳細調査をしております。

この件については、報道機関よりお問い合わせを頂き、お知らせしている内容もありますが詳細調査の結果、新たに判明した事実もありますので、現段階での調査状況と今後の進め方についてお知らせします。

(1) 概 況

2月16日釧路駅発札幌駅行き「スーパーおおぞら12号」が20時14分札幌駅に到着した際、7号車(キハ283-902号)の4軸目より異臭が発生していたため、検修社員が車両の点検を行ったところ、ブレーキシュー(制輪子)脱落と車輪付近が加熱されていること及びグリスが車輪付近に飛散していること等を確認しました。その後、万全を期して、搬送台車(車輪を持ち上げて運ぶ装置)を取り付けて、翌1時18分に札幌駅から、札幌運転所に回送した後、2月19日から苗穂工場で詳細調査をしております。

(2) 現在までの調査で判明した内容

脱落していたブレーキシューと対になるブレーキシューの下半分も割れて脱落していた。車輪表面に微細なキズと剥がれ及び、車輪表面の一部にリム垂れと呼ばれる表面形状の変形が発生していた。
台車部品のひとつであるリンクを留めるピンのナットが外れ、リンクとピンにすき間が発生していた。
速度発電機と車輪の上下振動を抑えるダンパー受けを兼ねている車軸の蓋が脱落したため、ダンパーの振動抑制の作用がなくなっていた。
軸箱体の一部に衝撃した跡があった。
ベアリングの解体調査により内部の一部コロの変形があり、グリスを密封しているシールが損傷し、グリスの流出がみられた。

(3) 原 因

現時点では、原因は特定できていませんが、上記の損傷からすると車輪の上下振動が発生していたものと推定されます。

なお、原因究明に向け社内での調査を進めるとともに、専門機関である鉄道総合技術研究所に詳しい調査、分析を依頼しています。

(4) 対 策

緊急対策として、事象発生直後に当該車両と同形式の車両(283系63両)については、ブレーキシューの取付状態と速度発電機取付ボルトの一斉点検を行い、点検を2月17日までに完了しております。

原因が特定されていないため、恒久的な対策は原因判明次第、速やかに実施しますが、当面、要因と考えられる次の対策を仕業検査、交番検査時に実施します。

- ・車輪表面の管理強化
- ・車軸の蓋とダンパーの取付ボルトの締め付け状況の確認
- ・ベアリングのグリス状態

なお、現在までの仕業検査、交番検査においても引き続き上記対策を実施しておりますが、異常は確認されておられません。

ダンパーにプロテクターの取付を実施します。